

第 11 回百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産学術委員会（議事要旨）

日 時：2021 年 6 月 10 日（木）15:00～17:30

開催方式：オンライン

出席委員：和田委員長、岡田副委員長、稲葉委員、西村委員、増田委員、宗田委員、シュ
タインハウス委員

オブザーバー：文化庁文化資源活用課西川調査官、畑係長、中門係員

（※議題 1～5：すべて公開）

【議題】

1 役員の選任について

設置要綱第 4 条により 和田委員長 岡田副委員長が選任。

2 遺産影響評価マニュアルについて（議事）

○緩衝地帯外の開発事業などに対する遺産影響評価

緩衝地帯外も含めて環境影響評価実施対象となる大規模事業は、環境影
響評価の評価項目に世界遺産に関する項目を追加し、遺産影響評価の詳
細分析とすること。

○HIA 実施フロー図（P29）における詳細分析へのフロー

- ・①事業把握後、④詳細分析へ至るフローを再確認した。
 - 1) 法令手続き対象事業は詳細分析不要
 - 2) 法令手続き対象外の事業のうち、OUV への影響が懸念される事業
は、詳細分析実施を検討（例.ガス気球）
 - 3) 緩衝地帯外も含めて、大規模事業は環境影響評価の中で詳細分析を
実施（例.南海高野線連立事業）
 - 4) 資産の整備計画は詳細分析を実施
- ・2)～4) の事業については、学術委員会の助言を基に、詳細分析の実施依
頼を判断することを確認した。
- ・これら 1)～4) について具体例を示しておく。

3 百舌鳥エリアにおけるガス気球の試行運行について（議事）

○球体デザイン

- ・資産の価値や景観の影響から、グレー単色の気球が良いといえるか、またグ
レーとした理由は何か。
⇒事業者と堺市担当課において事業趣旨や景観との調和を勘案して、グ
レー単色とした。
- ・遺産を保護することと、来訪者や地域住民から愛されるもしくはリスペクト
される環境も大切なので、そのバランスに留意すること。

○評価項目について

- ・現在の影響評価案には試行実施段階前の項目が含まれているが、試行中の評価項目を充実させること。
運行継続の可否の判断に資する評価項目と指標を作成し、試行中に評価のための情報を収集すること。
これらについて次回委員会に諮ること。
- ・
- ・検証にあたっては動画も利用し、HIA 評価書を作成すること。

○気球・ゴンドラの構造について

- ・次回委員会で気球などの構造がわかる資料を提出すること。

4 令和2年度の事業報告について

4 (1)地盤調査方法比較検討委託概要について

- ・導き出した弾性波探査という調査方法が有効だとわかれば、他の資産でも活用できるため、取り組みを進めていけばよい。
- ・自然崩壊のみならず、防災の観点から資産を保護する議論も必要である。

4 (2)水質調査概要について

- ・アオコの発生と季節は関係するので、調査報告に調査日を入れるべき。
- ・臭いの発生に関係する底泥層の分解促進には、墳丘に影響がなければ、乾天干しが有効である。
- ・過去の周濠の水質データがあればそれらを収集し、経年変化を追うことも水質の管理計画や改善を考えるうえで参考となる。

4 (3)来訪者受入方策にかかる調査分析事業について

- ・小学生などのファミリー層が古墳群に訪れるようにする方策が必要。
- ・教育的観点は大切なので、教育委員会内部の他部局とも連携してほしい。

5 令和3年度の事業について

5(1)墳丘の構造的安定性調査の実施について

- ・弾性波探査で非破壊による構造的安定性を検証しながら、その効果を確認するために、保存目的として貫入試験を併用する。
- ・追加的勧告は非破壊が前提ではなく、できるだけ壊さない、傷めない条件の中で最善の方法を取ればよい。
- ・貫入試験箇所は遺構に影響のない場所など十分配慮して計画すること。

以 上